

## 論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (国際協力学)	氏名	SHRESTHA SUMAN LAL
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
Climate Change Resilience and Vulnerability of Farmers in Nepal			
論文審査担当者			
主 査	広島大学大学院国際協力研究科 教授	マハラジャン、ケシャブ・ラル	印
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科 教授	藤 原 章 正	
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科 教授	金 子 慎 治	
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科 准教授	川 村 健 介	
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科 准教授	関 恒 樹	
〔論文審査の要旨〕			
<p>ネパールにおける気候変動と農民の脆弱性と適応の弾力性に関する問題に着目し、気候変動が自然災害に与える影響、全国における郡別脆弱性の把握、関連政策、気候変動に対する農民の適応性、脆弱性及び適応の弾力性の問題に着目した本論文の課題は適切である。そして、ネパールにおける気候変動のトレンドを季節別・郡別に確認し、各郡の脆弱性の度合を算定・類型化し、全国レベルの脆弱地域を明確にし、異なる脆弱性の状況下にある三つの郡において気候変動が自然災害に与える影響、そして気候変動に対する農民の受け止め方及び適応について現地実態調査による一次資料を用いた計量的実証分析は地域研究の視野に立つものとして高く評価できる。</p> <p>本論文は8章から構成され、以下のようになっている。</p> <p>序 章：研究の背景、課題と制約</p> <p>第2章：先行研究のレビュー</p> <p>第3章：研究分析のフレームワーク、方法論及び調査地の位置づけ</p> <p>第4章：気候変動と自然災害のトレンド分析</p> <p>第5章：ネパールにおける気候変動の脆弱性：郡レベルにおける脆弱度の分析</p> <p>第6章：気候変動への適応：事例地における世帯レベルの分析</p> <p>第7章：農家における気候変動の脆弱性と適応の弾力性</p> <p>終 章：結論</p> <p>本論文の内容は、1)最近 30 年間以上にわたる全国の観測地における日々の気象データを季節別にまとめ、ネパールの気候変動の実態を明らかにしたこと。2)見かけ上無関係な回帰(SUR: <b>seemingly unrelated regression</b>)モデル分析によって気候変動が自然災害に与える影響について明確にしたこと。3)各郡における自然災害、被災状況、物的・社会的インフラ等の情報を地理的情報システムの利用・分析によって各郡の脆弱性を明確にしたこと。4)現地調査による一次資料、農民の個別データを用いて気候変動における農民の受け止め方及び適応について Heckman 推定法分析によって明らかにしたこと。5) さらに農民の脆弱性及び適応の弾力性について主成分分析によって明らかにしたこと。6)研究成果の一部は内外で査読付学術論文(4 本)として、また一部は国際農業経済学会、国際地理学会、地域農林経済学会等でポスター・口頭発表されていること。7)以上の研究を踏まえ、全国レベルでは気候変動の通事的分析、地域・郡レベルにおける脆弱性の面的分析、事例地域においては気候変動およびその影響についての農民の受け止め方、適応性、脆弱性及び適応の弾力性について世帯レベルでの分析を関連させ、独自の研究説が展開されていることは評価される点として注目された。</p> <p>以上の結果から、審査委員全員一致で本論文が博士(国際協力学)に充分値すると判断し合格と判定した。</p>			